

腎 臓 内 科

概 要

部 長：吉 本 明 弘
ス タ ッ プ：3 名
専 攻 医：2 名

【症例数・検査・治療・成績】

外来患者数は週に約 200 人、入院患者数は 1 日約 15 人。CAPD 導入は年間約 6 人、外来 CAPD 患者数は約 20 人。血液透析ベッド数は 12 床で年間約 80 人の新規導入がある。

外来維持血液透析は実施していないので、安定すれば近隣の透析病院を紹介している。

悪性腫瘍や AC バイパス術等の手術や心カテ、血管造影等の検査を有する透析症例が多い。又、糖尿病性腎症や難治性ネフローゼ症候群、急性腎不全の症例も多く、腎生検は適応を限定して、エコー下に年間約 100 例実施している。腎移植は 1991 年に生体腎移植を開始した。最近では腎移植希望者が増えている。

病診連携の一環として腎不全教育入院も積極的に受け入れている。

当科の特徴

内科的腎・尿路疾患全般および関連疾患を対象としている。糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、全身疾患に伴う腎疾患、妊娠腎、腎性高血圧、腎尿路感染症等多岐にわたる。急性腎不全や慢性腎不全の急性増悪例等、急性期症例が多い。

血液浄化法は血液透析のみならず、症例に応じて血漿交換、血液吸着、HDF、CAPD 等、きめ細かい治療をしている。難治性ネフローゼ症候群に対しては、積極的な治療を行い、早期に社会復帰できるように努めている。腎移植希望者に対し、生体腎移植を積極的に行っている。

日本腎臓学会認定研修施設、日本透析医学会認定研修施設である。

一 般 目 標

腎臓内科医として幅広い知識と技術を習得し、患者にとって最善の医療を提供できる能力を身につける。

行動目標

腎臓内科領域の基本技術を習得する。正確な診断を下し、治療計画を立てることができる。腎生検組織をみて病理診断ができるようになる。急性血液浄化療法が1人でもできるようになる。

- 1年目：**
1. 腎臓疾患の初期対応、基本技術を習得する。
 2. 幅広い医学知識に基づいた診療をし、鑑別すべき疾患を挙げ、最終診断を下すことができるようになる。そして効率的な検査を行い、治療計画を立てることができるようになる。
 3. コメディカル・看護師をはじめ、同僚他科の医師との意思疎通と協力関係を築き、患者家族との信頼関係に立った医療ができるようになる。
 4. 当直業務や救急担当業務に就く。
- 2年目：**
1. 腎生検組織をみて病理診断ができるようになる。
 2. 急性血液浄化療法が一人でできるようになる。
 3. 後輩医師を指導できるようになる。
 4. 学会発表、論文作成を行う。
- 3年目：**
1. 腎臓内科領域の中でも専門領域を持ち、独り立ちする。
 2. 日本腎臓学会認定医、日本透析医学会認定医取得の準備をする。

週間スケジュール

	朝	午後
月	腎臓内科カンファレンス	
火	CAPD カンファレンス	腎生検、透析カンファレンス
水	腎臓内科、泌尿器科合同カンファレンス（第2水曜日）	勉強会
木		腎臓内科カンファレンス、部長回診
金		腎生検カンファレンス

(月曜から土曜まで血液透析実施)

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL：http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

吉本 明 弘：ayoshi@kcho.jp